

次世代RTGSプロジェクト

— 第2期対応を中心に —



2011年11月
日本銀行決済機構局

日本銀行は、2011年11月14日、次世代RTGS第2期対応を実施しました。本資料は、第2期対応を中心に、次世代RTGSプロジェクトの内容をとりまとめたものです。

目次

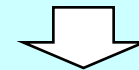
1. プロジェクトの経緯	3
2. プロジェクトの概要	4
3. 第2期対応の概要	5
<参考>	7
<関連資料・照会先>	13

1. プロジェクトの経緯

- 2001年 1月 日銀当座預金決済および国債決済、
時点ネット決済から即時グロス決済
(RTGS<Real-Time Gross Settlement>)へ
- 2004年 3月 全銀協「大口決済システムの構築等資金決済
システムの再編について」を公表
- 2005年11月 「日本銀行当座預金決済における次世代RTGS
の展開」を公表（市中協議）
- 2006年 2月 「日本銀行当座預金決済における次世代RTGS
の展開—関係者のご意見を踏まえて—」を
公表（次世代RTGS構想の具体化に着手）
- 2008年 7月 「当座勘定（同時決済口）基本要領」を制定
- 2008年10月 次世代RTGS第1期対応の稼働開始
- 2011年11月 次世代RTGS第2期対応の稼働開始

時点ネット決済とは？

決済システムが受け付けた振替の
依頼を一定の時刻（＝時点）までた
めておき、その時点で、各金融機
関それぞれの受払差額を入金また
は引き落しする仕組み。決済に必
要な資金は少なくて済むが、
システムミック・リスクを制度的
に内包した決済方式。



即時グロス決済(RTGS)とは？

決済システムが振替の依頼を受け
付ける都度、一件ごとに、その全額
を決済する仕組み。決済のために
より多くの資金が必要となるが、
時点ネット決済が内包するシ
ステムミック・リスクが削減される。

2. プロジェクトの概要

■ わが国資金決済システムの安全性と効率性の両面の向上を図ることが目的。

- ① 外国為替円決済制度(外為円システム)、全国銀行内国為替制度(全銀システム)を通じて時点ネット決済で処理されている大口資金取引を、日銀当座預金上でRTGS処理。
- ② 日銀当預に「同時決済口」を新たに設け、流動性節約機能(待ち行列機能、複数指図同時決済機能)を備えたRTGS処理を行う。

■ 第1期、第2期の2段階で実施。

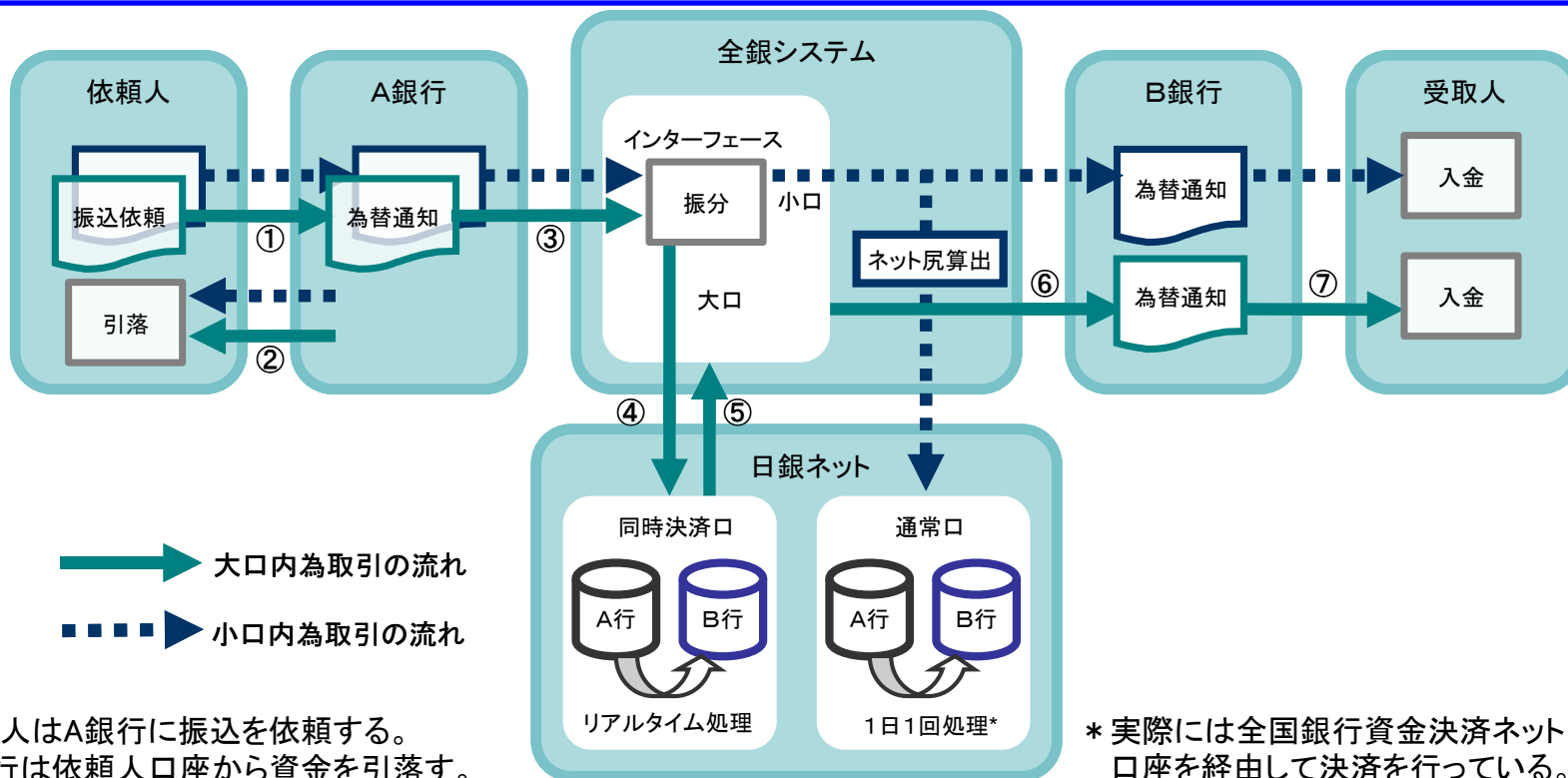
第1期:「外為円決済取引の完全RTGS化」と「流動性節約機能の導入」
(2008年10月14日に稼働開始)

第2期:「大口内為取引のRTGS化」

(第6次全銀システムの稼働開始に合わせ、2011年11月14日に稼働開始)

3. 第2期対応の概要①

- 仕向銀行から全銀システムに送信された内国為替取引のうち、大口内為取引については、銀行間の資金決済に必要な情報が抽出されて、全銀システムから日銀ネットに送信され、RTGS方式で決済
- 日銀ネットでRTGS処理された結果は、全銀システムに送信され、それを受けて、全銀システムが被仕向銀行に為替通知を送信
- なお、小口の内国為替取引(1件1億円未満の取引)については、従来どおり時点ネット決済で処理



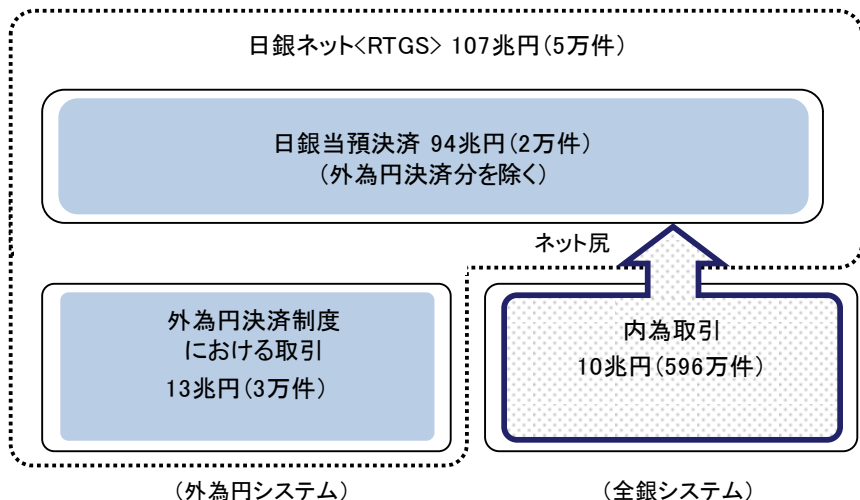
- ① 依頼人はA銀行に振込を依頼する。
- ② A銀行は依頼人口座から資金を引落す。
- ③ A銀行は為替通知を全銀システムに送信する。
- ④ 全銀システムは、大口内為取引を抽出し、日本銀行に振替依頼を送信する。
- ⑤ 日本銀行はA銀行の同時決済口からB銀行の同時決済口に資金を振替えた後、処理済通知を全銀システムに送信する。
- ⑥ 全銀システムは、B銀行に為替通知を送信する。
- ⑦ B銀行は受取人口座に入金する。

* 実際には全国銀行資金決済ネットワークの口座を経由して決済を行っている。

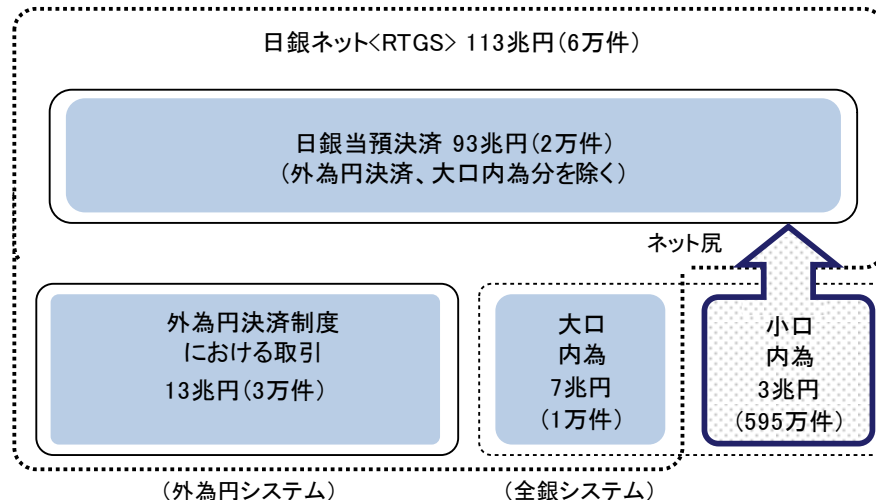
3. 第2期対応の概要②

- 全銀システムで1日1回の時点ネット決済で処理されている内為取引のうち、大口分(1件1億円以上の取引)を、日銀当預RTGSで日中即時に決済

従来のイメージ(第1期対応後、2008年10月～)



大口内為取引のRTGS化後(第2期対応後、2011年11月～)



RTGSの対象範囲

時点ネット決済の対象範囲

大口内為取引の取引金額・件数	
金額	7兆円(70%)
件数	1万件(0.1%)

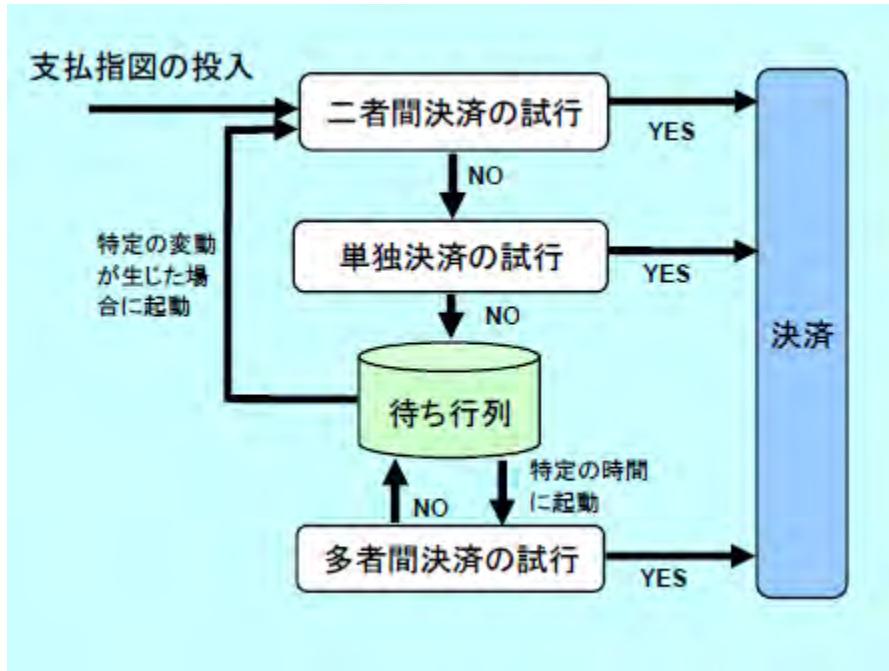
注) 計数は2010年10月の1営業日平均の決済金額を基に試算。

* 括弧内は内為取引全体に占めるシェア。

<参考1>流動性節約機能の概要

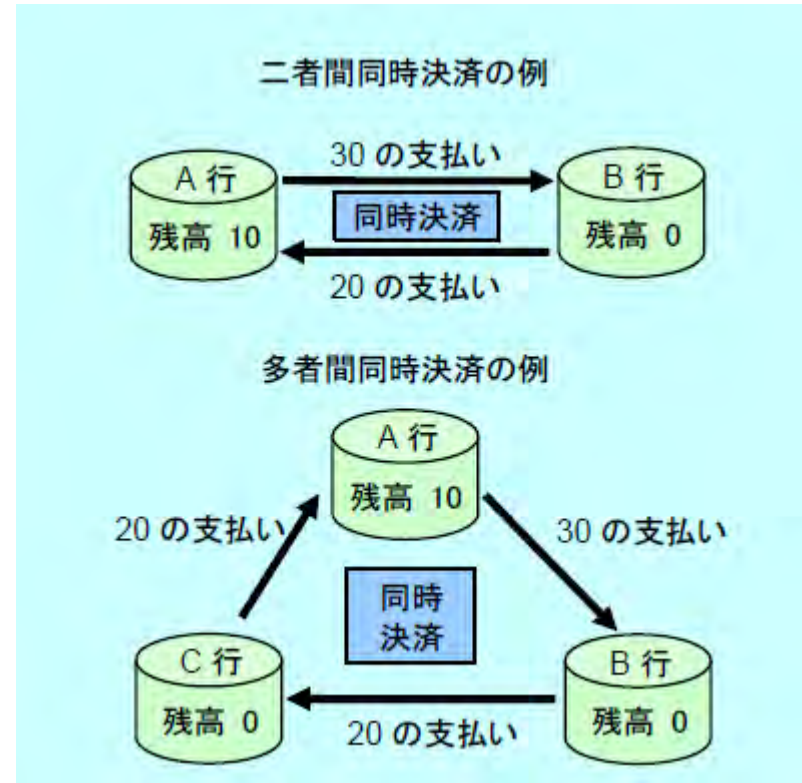
①待ち行列機能

- …金融機関から支払指図を受付けた時に、資金不足のために直ちに決済ができない支払指図を日銀ネットに待機させておく機能。



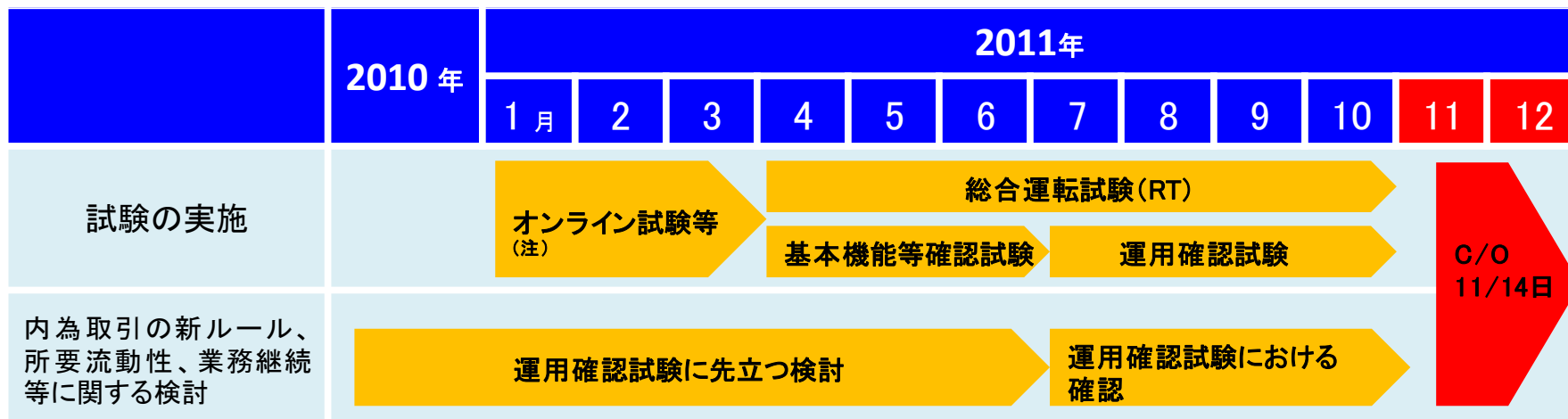
②複数指図同時決済機能

- …日銀ネットが受付けた支払指図と日銀ネット内で待機している支払指図の中から、同時に決済すれば資金不足とならない組合せを探し出し、当該決済を実行する機能。



<参考2> 第2期対応に向けた作業

■ 稼働開始(C/O)までのスケジュール



(注) 第2期対応により一部変更となるCPU接続・ファイルUL/DL機能について、その利用希望先のシステムと日銀ネットとのインターフェースの正当性を確認するための試験

■ 総合運転試験(RT)の概要

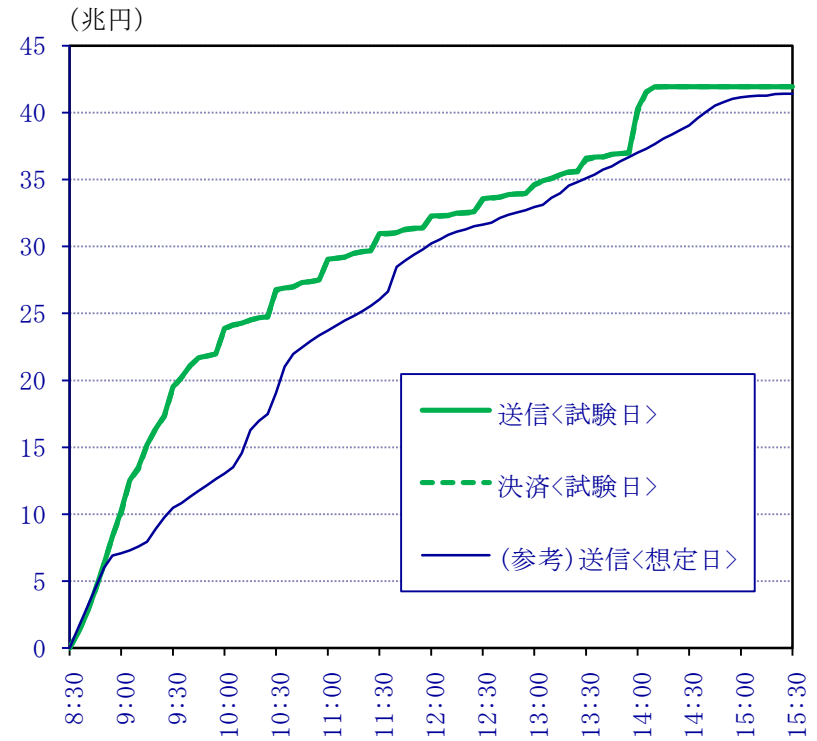
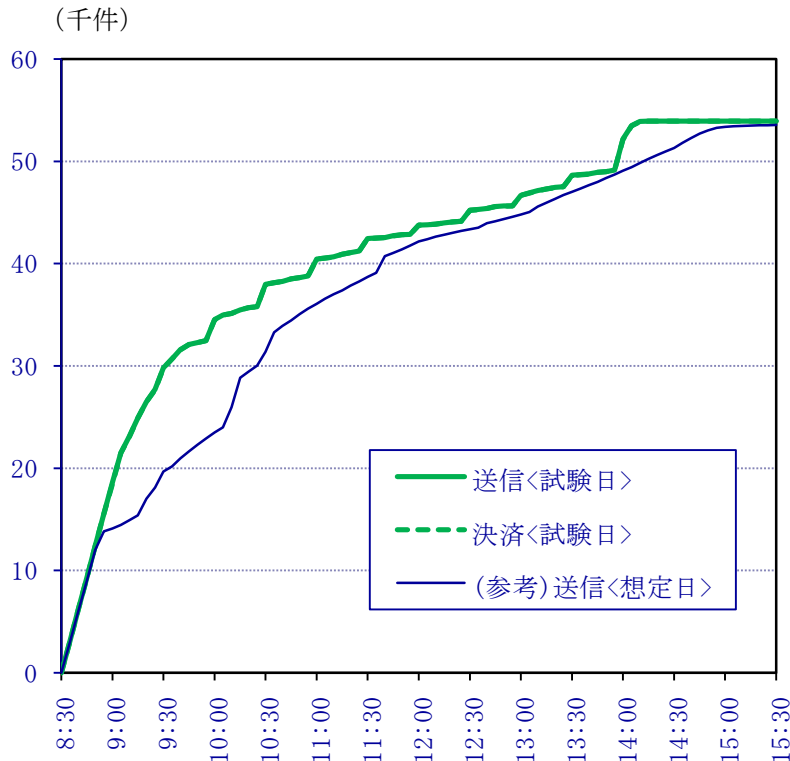
	実施日	試験目的
基本機能等確認試験	4月23日 6月11日	第2期対応において新設・変更される日銀ネットの入出力電文や大口内為取引の決済に関する事務と動作の習熟等の確認
運用確認試験	7月18日 9月19日	第2期対応後の当座勘定(同時決済口)の決済環境に応じた所要資金の準備や決済の進捗管理等にかかる実務運用の確認・習熟

* 日付はいずれも2011年

<参考3> 第2期対応後の決済進捗のイメージ

- 総合運転試験(運用確認試験)の結果によると、加盟銀行から全銀ネットへの電文送信タイミングは早期化し、また、短い待機時間での決済が実現
- 大口内為取引の決済は、全体として大幅に早期化

総合運転試験(運用確認試験)第1回<月末日想定>における大口内為取引の決済進捗



(注)1. 運用確認試験では、当座勘定(同時決済口)の終了時刻を15:30と設定している。これに伴い、運用確認試験では、指図投入時刻が14:00~16:00の取引は一律14:00に、指図投入時刻が16:00~17:30の取引は一律「2時間早い時間」に読替えを行っている。

2. 全銀システムが加盟銀行から受信した取引は、全銀システムが予め設定した一定の送信ペースを超えない範囲で全銀システムから日銀ネットに順次送信される仕様。想定日の決済進捗もこれを前提として算出している。

<参考4> 主要RTGSシステムの比較

		米国		欧州	日本
資金決済システム		Fedwire (中銀)	CHIPS (民間)	TARGET2 (中銀)	日銀ネット (中銀)
決済件数 (千件/日)		497	361	343	51 < 59 >
決済金額 (10億米ドル/日)		2,414	1,449	3,048	1,190 < 1,268 >
1件当たりの金額 (100万米ドル)		4.9	4.0	8.9	23.5 < 21.5 >
流動性 節約 機能	待ち行列機能	無	有	有	有
	複数指図同時 決済(オフセッ ティング)機能	無	BLS(日中随時) MLS(日中随時)	BLS(日中随時) MLS(一定間隔)	BLS(日中随時) MLS(1日5回)

(注) 1. 計数は2010年平均。

2. 日本の< >内は次世代RTGS第2期対応後の計数<2010年10月の1営業日平均の計数を基に試算>。

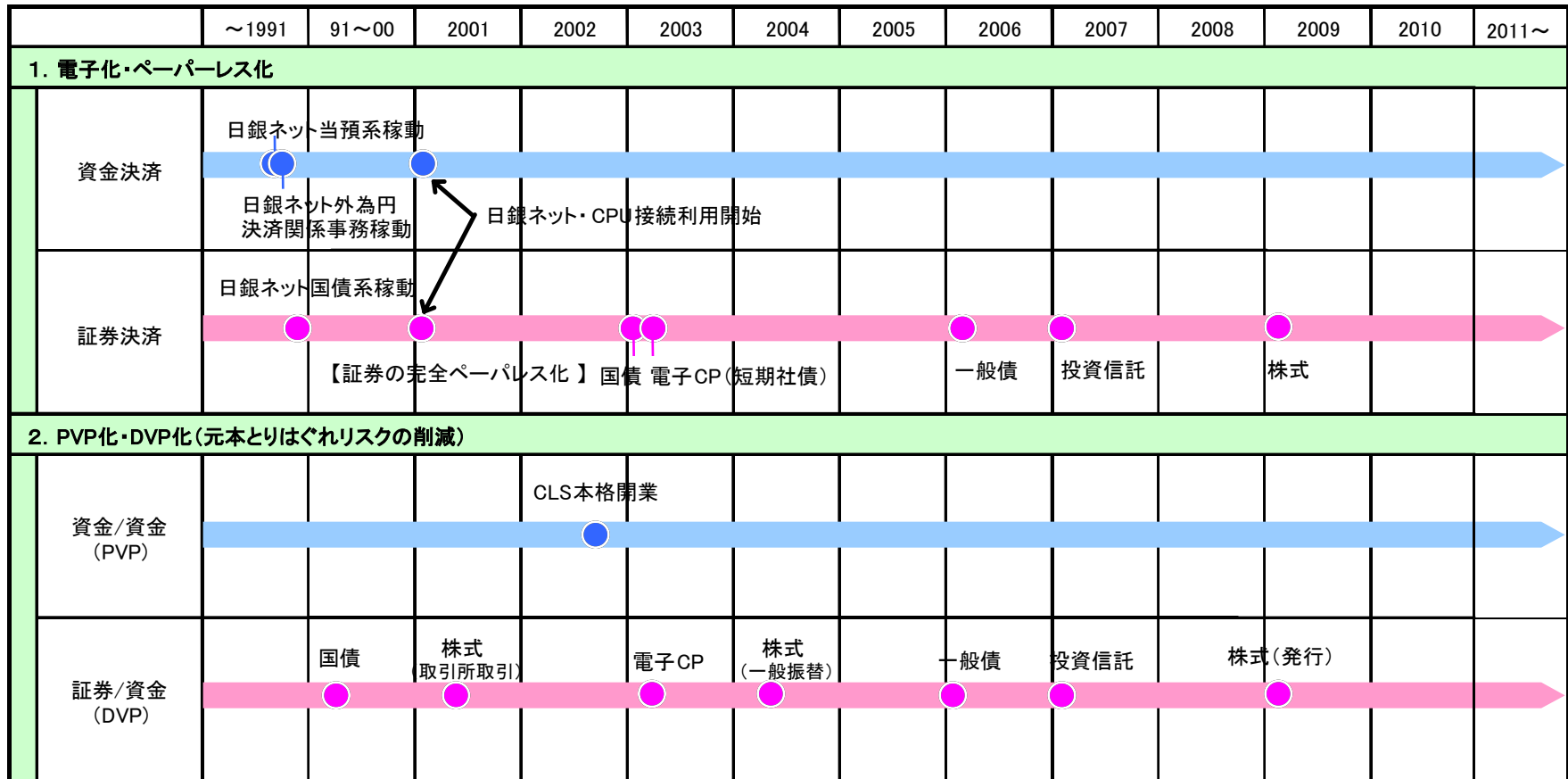
3. ユーロ、円については、2010年の平均為替レートを用いて米ドル換算。

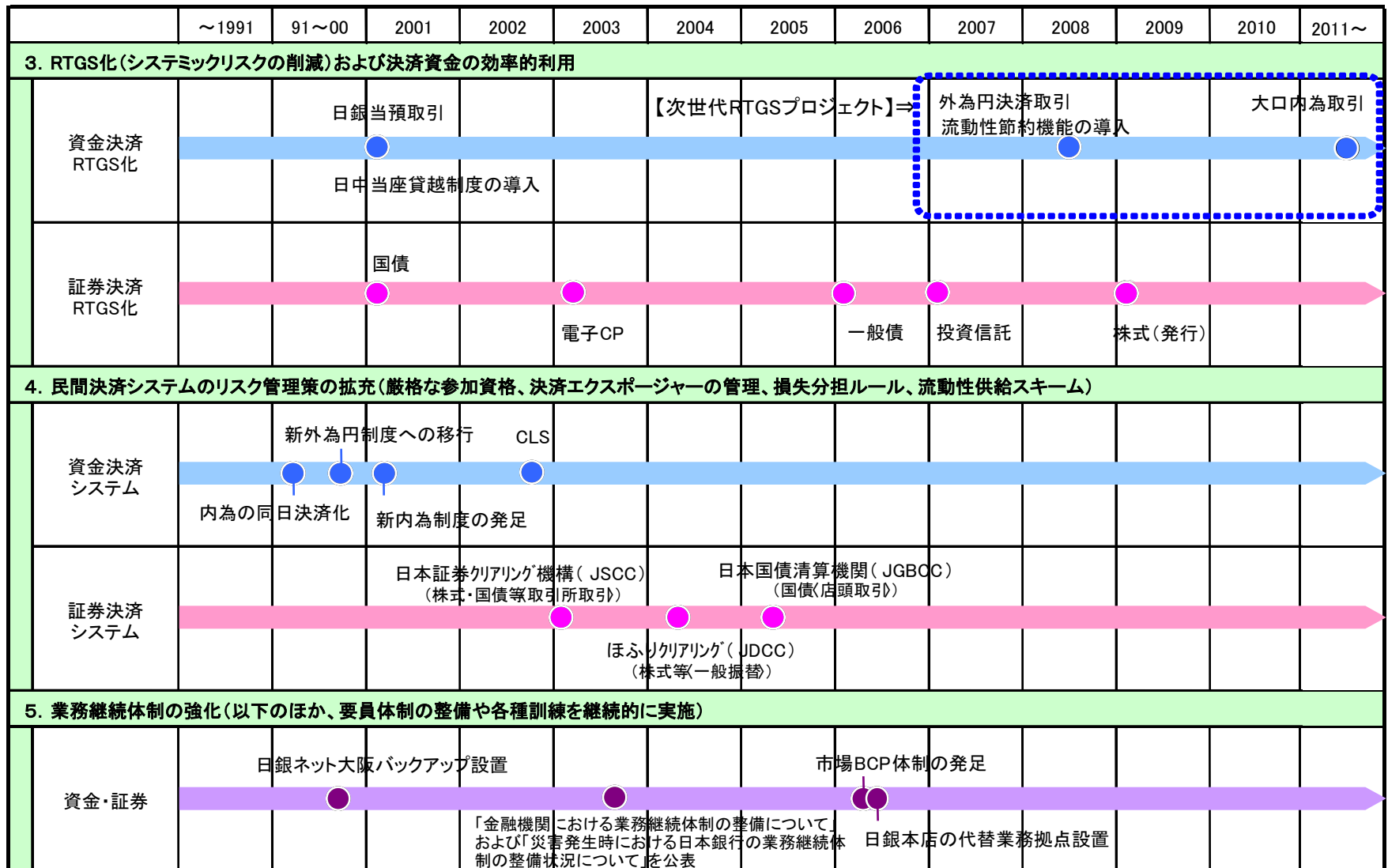
4. BLSは二者間同時決済機能、MLSは多者間同時決済機能。

(出所)FRB、The Clearing House Payments Company、ECB、日本銀行

<参考5>わが国決済システム改革の流れ

— 安全性と効率性の向上に向けた主な取り組み





<関連資料・照会先>

■ 本プロジェクト関連資料の掲載場所

- ・ 日本銀行ホームページ(www.boj.or.jp) 下部
「業務上の事務連絡」-「日銀ネット関連」-「次世代RTGS関連」
- ・ 同上部
「決済・市場」-「日銀ネットの運営」-「次世代RTGS」

■ 本プロジェクトに関する照会・連絡先

- ・ 日本銀行 決済機構局 決済システム課
- ・ 電子メール post.rtgsxg@boj.or.jp
- ・ 電話 03-3279-1111 川原(5600)、西澤(2957)